

越前蟹

赤谷慶子

三年前の二月、福井在住の気功仲間の手配により武生まで越前蟹を食べに日帰り旅行に赴きたりき。総勢六名は東海道新幹線の米原を經由し、北陸本線に乗り武生までたどり着きたり。福井の仲間は、八人乗りの箱型のバンを貸切り駅にて待機してあり。駅より小一時間、人ひとり見当たらず道路をひたすら海岸線に向かひて、車は走りき。人口少なきのゆゑなりや、皆目人を見るなくして海岸線の公衆温泉浴場に到着。日本海に突き出したる露天の岩風呂にて、波の高き冬の日本海を眺めつつ湯に浸かりき。三十分程して漁師運営の民宿より電話ありて、越前蟹茹で上がりし事を知らせてきたり。蒼惶として着替へ、皆と宿へ向かひき。福井の友人より、蟹の汁は匂い除去する事難ければ、割烹着のごときエプロンを持参せよとの指示ありて、全員これをまとひ、黙々と蟹と格闘したりき。見しこともなき大きな越前蟹にて、七十センチはありけむや。それに加へその朝採れたての魚の刺身も供せられたり。福井の仲間、曰く、越前蟹には黄色き番号札なくば越前蟹とは呼べずとの由。一万五千円の食事なるが、東京におきてはそのやうなる値段にては到底食膳に出づる代物ならず。

三月初頭、縁ありて、今年南青山にある「望洋楼」といふ福井の老舗店におきて、同じ仲間たちと蟹コースを食べたり。ひとつの蟹を二人にて食すといふコースにて、その大きさは武生において食せしものには到底及ばず。料亭故、色々調理せられたる蟹「グラタン」なりし料理も提供せられたれども、そのコースの値段に見合ひし料理にて確かに絶品にてありき。さはさりながら、武生にて食せし蟹にては満服度は高くはなかりき。その店には「奉納用」のコースあり、二十数万円もすといふ。どのような人物食するやと思ひきや、アジアの富豪客らし。越前蟹を食するは、ある意味のステータスとの由。我等食せる蟹コースは、往復新幹線代など交通費を考慮すれば、妥当と思へども、日常堪能するを得る値にはあらざるなり。

(平成三十年三月十七日受附)